

問題の概況、原因・要因、論点等の整理（案） 滝川先生の意見を踏まえた底質部分の修正案

2．底質の変化

問題の概況	原因・要因として指摘されている事項	論点、課題
<p>< 有明海 ></p> <p>底質の泥化の傾向がある。（湾奥部、湾中央部、筑後川沖、熊本沖（横島沖～白川・緑川沖） 諫早湾など）</p> <p>底質の泥化傾向が高い湾奥西側、熊本沖等では、底質のCOD、硫化水素、有機物（強熱減量）等の値が増加している。</p> <p>< 「底質の細粒化」には粒径が小さくなっている場合と有機物が増加している場合がある ></p> <p>水深の海底面積の変化(大正12年～平成5年)をみると、水深0～5mの浅い部分と水深40m以上の深い部分が減少し、水深10～30mの部分が増え、全体的に平均化してきている。</p> <p>海底堆積物の変化等から有明海の富栄養化は40～50年前から始まっており、それに伴い底質の泥化も以前から進行してきている。</p>	<p>河川の影響（筑後川水系等からの細砂、粗砂の流入の減少）</p> <p>潮流の減少</p> <p>貧酸素水塊・赤潮の発生に伴う底質の有機物・硫化物の増加</p> <p>底生生物の減少に伴う生物攪乱の低下による有機物分解能力の低下</p> <p>河川流入水と潮流と浮泥との相互作用による陸域起源の有機物の凝集・沈降</p> <p>海岸線の人工化によるなぎさ線・干潟の喪失</p> <p>河川流入負荷の質・量の変化と海域への直接負荷</p> <p>海砂採取等による海底地形の変化</p>	<p>底質の変化に大きな影響を及ぼしている原因は何か。</p> <p>河川からの土砂の流入はどのように変化してきているか。</p> <p>泥化は以前（熊本沖では少なくとも20～30年前）から進行してきており、近年（1996年以降）の潮汐振幅の減少が底質の泥化に大きな影響を与えているとは考えにくい。</p> <p>定期的な維持管理を念頭におき、様々な具体的改善策を複合して実施することにより、目的に応じて海域環境を改善させ、その効果を持続させることが必要。</p>

<p><八代海></p> <p>底質の強熱減量と硫化物は、特に増加する傾向はみられない。</p> <p>養殖漁場の底質のCODは1995年がピークで以降減少、硫化物は1987年頃がピークで以降減少又は横ばい。</p> <p>1980年代後半から赤潮が発生するようになった湾奥では、貧酸素状態になりやすく、流れがよどみやすく、シルト状の堆積物が分布する。</p> <p>海底表層の堆積物は、湾奥部及び湾の東海岸(日奈久以南、天草下島東部)はシルト層、樋島から御立岬以北では極細粒砂、以南では細粒砂、南端の瀬戸付近では中粒砂より粗い砂が分布する。</p>		<p>八代海の底質環境等については、詳細な調査が行われてきていないため、データ不足で十分な分析ができていない。今後、さらなる調査が必要である。</p>
---	--	---